

2017年2月期 第2四半期 (2016年3月1日～2016年8月31日)

# 決算説明資料



©2016「君の名は。」製作委員会

2016年10月17日



東宝株式会社

阪急阪神東宝グループ

# 2017年2月期 第2四半期 営業概況

	2016年2月期 (2015年3月～8月)	2017年2月期 (2016年3月～8月)	前年同四半期比	増減率
営業収入	123,866百万円	<b>114,983百万円</b>	▲8,882百万円	-7.2% ↓
営業利益	24,332百万円	<b>24,403百万円</b>	71百万円	0.3% ↑
経常利益	25,614百万円	<b>25,048百万円</b>	▲565百万円	-2.2% ↓
親会社株主に帰属する 四半期純利益	15,808百万円	<b>16,585百万円</b>	776百万円	4.9% ↑

## 【第2四半期の営業概況】

当四半期は、映画営業事業（東宝・東宝東和等）において昨年の夏興行にはヒット作の数で及ばず、前年同期比で減収となったものの、当社幹事作品『シン・ゴジラ』『君の名は。』の大ヒットや「新宿東宝ビル」がフル稼働した不動産事業での増益が寄与し、営業利益は増益を確保。

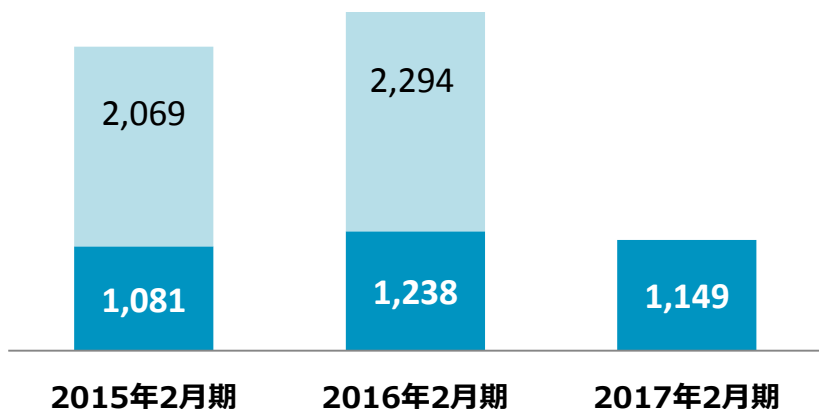
また、映画興行事業、映像事業はほぼ前年並みの高いレベルで推移、演劇事業も堅調な成績を収めた。

なお、営業外収益の減により経常利益では減益となったが、特別損失の計上額が少なかったことにより最終利益では増益を達成。

# 営業概況3力年比較

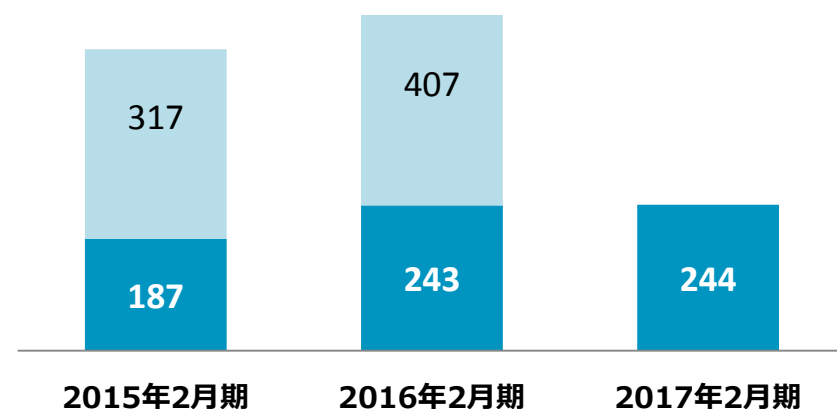
## 営業収入

■ 第2四半期 ■ 期末



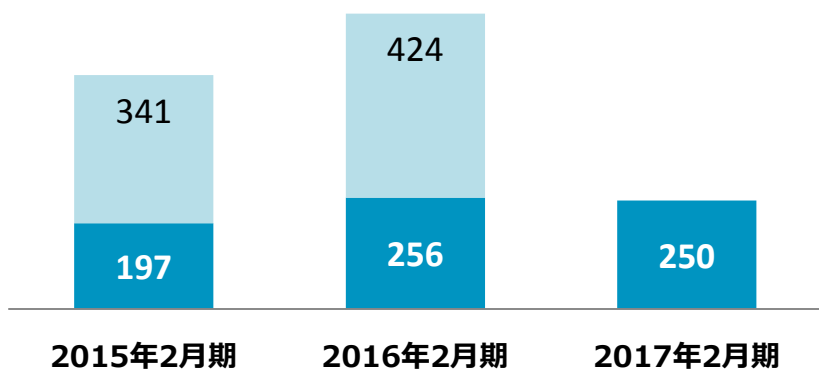
## 営業利益

■ 第2四半期 ■ 期末



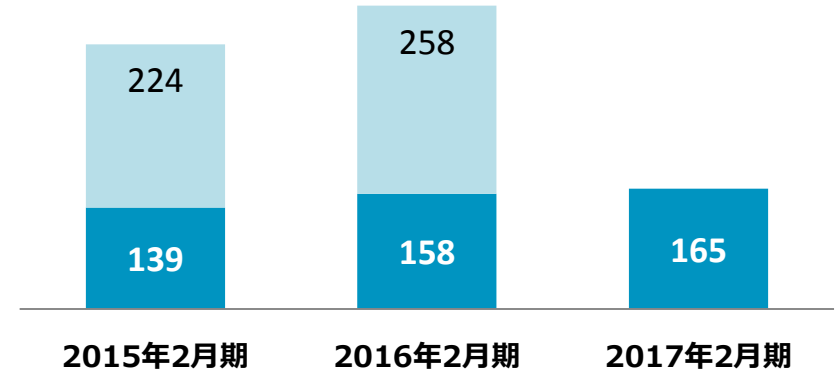
## 経常利益

■ 第2四半期 ■ 期末



## 親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益

■ 第2四半期 ■ 期末

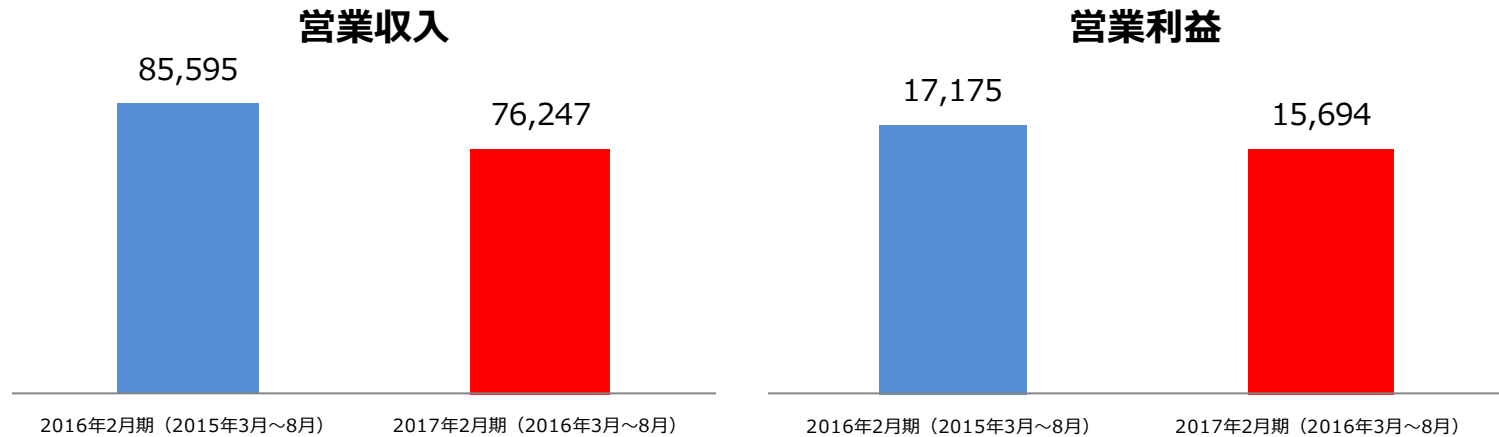


(単位: 億円)

# セグメント別業績一覧

	営業収入 (単位: 百万円)			営業利益 (単位: 百万円)		
	2016年2月期 (2015年3月~8月)	2017年2月期 (2016年3月~8月)	増減率(%)	2016年2月期 (2015年3月~8月)	2017年2月期 (2016年3月~8月)	増減率(%)
①映画事業	85,595	<b>76,247</b>	-10.9% ↓	17,175	<b>15,694</b>	-8.6% ↓
映画営業	31,347	<b>23,264</b>	-25.8% ↓	8,070	<b>6,464</b>	-19.9% ↓
映画興行	40,859	<b>39,938</b>	-2.3% ↓	6,515	<b>6,568</b>	0.8% ↑
映像事業	13,388	<b>13,043</b>	-2.6% ↓	2,589	<b>2,661</b>	2.8% ↑
②演劇事業	7,078	<b>6,654</b>	-6.0% ↓	1,517	<b>1,303</b>	-14.1% ↓
③不動産事業	30,705	<b>31,612</b>	3.0% ↑	7,256	<b>9,045</b>	24.7% ↑
不動産賃貸	16,100	<b>16,253</b>	0.9% ↑	5,762	<b>7,120</b>	23.6% ↑
道路事業	9,740	<b>10,405</b>	6.8% ↑	1,017	<b>1,468</b>	44.3% ↑
不動産保守・管理	4,864	<b>4,954</b>	1.9% ↑	476	<b>456</b>	-4.3% ↓
④その他事業	486	<b>469</b>	-3.5% ↓	34	<b>50</b>	46.8% ↑

# セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業は、夏興行において、7月29日公開の庵野秀明総監督『シン・ゴジラ』、8月26日公開の新海誠監督によるアニメ『君の名は。』の当社幹事製作2作品が、社会現象となる記録的な大ヒット。（『君の名は。』の第2四半期への業績貢献は限定的）一方で、東宝東和配給の洋画作品は『ペット』が興行収入41億円を超えるヒットとなったが、『ジュラシック・ワールド』(95億円)、『ミニオンズ』(52億円)等があった昨夏の成績には及ばなかったため、映画営業事業は減収減益。（興行収入は9月末時点）
- 映画興行事業は、当社グループ配給作品のほか、『ズートピア』『ファインディング・ドリー』（ウォルト・ディズニー配給）等のヒットにより興行収入はほぼ前年並で推移。新オープンのTOHOシネマズ 柏、仙台の2サイトも順調に稼働。運営効率化やコストコントロールによって増益を確保。
- 映像事業は、『僕のヒーローアカデミア』等のアニメ製作事業が好調に推移。2.5次元ミュージカル『刀剣乱舞 虚伝 燃ゆる本能寺』等のODS配給や、『シン・ゴジラ』関連の商品・パンフレット等の販売が業績に寄与し、減収ながら増益。

# 映画 - 第2四半期累計 稼働作品 -

## 当社配給作品 興行成績ベスト10

作品名	公開月	興行収入
『君の名は。』	2016年8月	120.0億円
『シン・ゴジラ』	2016年7月	74.7億円
『名探偵コナン 純黒の悪夢(ナイトメア)』	2016年4月	63.1億円
『映画ドラえもん 新・のび太の日本誕生』	2016年3月	41.2億円
『暗殺教室～卒業編～』	2016年3月	35.1億円
『映画クレヨンしんちゃん 爆睡! ユメミーワールド大突撃』	2016年4月	21.1億円
『ポケモン・ザ・ムービーXY&Z ボルケニオンと機巧 (からくり) のマジアナ』	2016年7月	20.5億円
『64-ロクヨン-前編』	2016年5月	19.3億円
『64-ロクヨン-後編』	2016年6月	17.1億円
『ちはやふる-上の句-』	2016年3月	16.3億円

※興行収入は9月末時点



©2016 TOHO CO.,LTD.

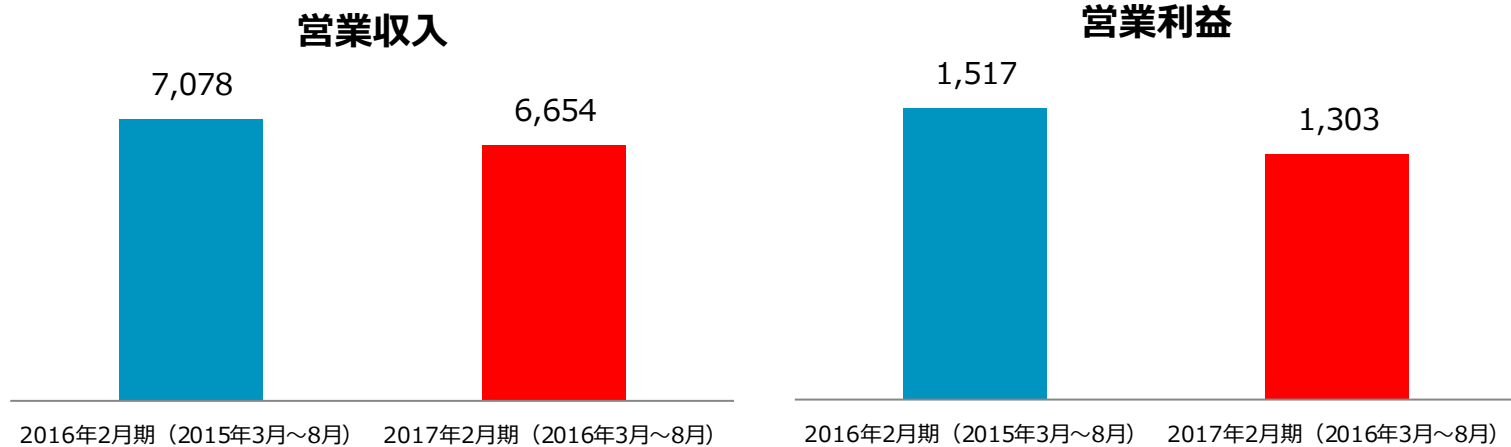


©2016「君の名は。」製作委員会



©2016映画「64」製作委員会

# セグメント別業績【演劇事業】



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では『1789 -バスティーユの恋人たち-』(4月~5月公演)が大入り、『エリザベート』(6月~7月公演)が連日満席、初の舞台化『王家の紋章』(8月公演)も大入りとなり、高稼働。
- シアタークリエでは『ジャニーズ銀座2016』(4月~5月公演)が全席完売し、『ジャージー・ボーイズ』(6月~7月公演)も好評で大入り。『頭痛肩こり樋口一葉』(8月公演)も堅調に稼働。
- その他、東京芸術劇場での『マイ・フェア・レディ』(7月~8月公演)等、バラエティに富んだ作品を提供したものの、昨年は『エリザベート』3か月ロングラン公演があったこともあり、全体としては前年同期比では減収減益。

# 演劇事業 —主要稼働作品—



2016年6月～7月帝国劇場公演  
『エリザベート』



2016年8月帝国劇場公演  
『王家の紋章』



2016年6月～7月シアタークリエ公演  
『ジャージー・ボーイズ』

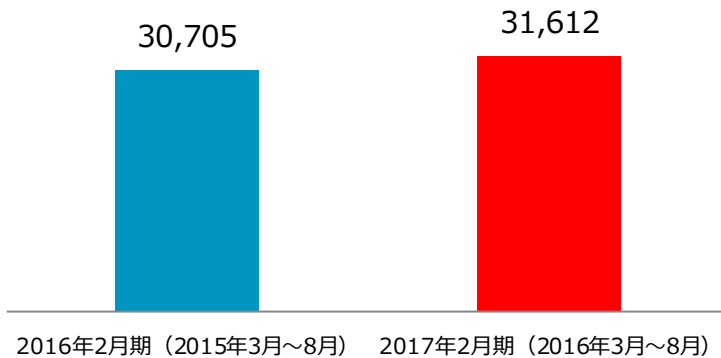


2016年8月シアタークリエ公演  
『頭痛肩こり樋口一葉』

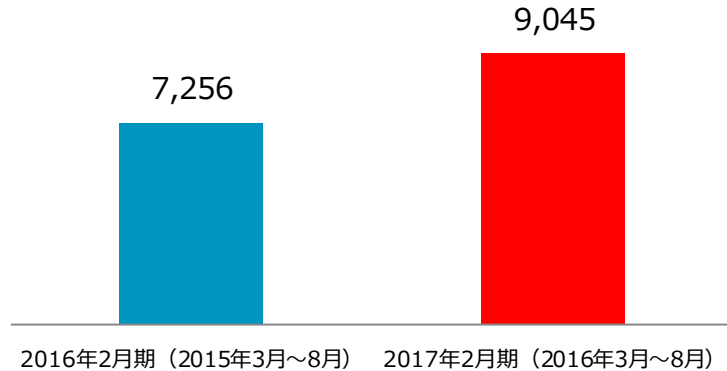


# セグメント別業績【不動産事業】

## 営業収入



## 営業利益



(単位：百万円)

## 業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、全国に有する賃貸物件が堅調に稼働したほか、昨年4月に開業した「新宿東宝ビル」がフル稼働し、増収増益。東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。
- 道路事業では、スバル興業(株)が積極的な営業活動による新規受注と、既存工事の追加受注に努めるとともに、原価管理の徹底によるコスト削減や業務効率化を行い、増収増益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、コスト削減への取り組みと新規受注の開拓をすすめ、堅調に推移。

## 映画 & 演劇 話題の待機作品



# MOVIE LINE UP



**2016年11月5日（土）全国東宝系にてロードショー**

愛する人に最後に残したやさしい嘘とは。  
この秋、涙なくしては語れない新たなラブストーリーの傑作が誕生。

**『ボクの妻と結婚してください。』**

監督：三宅喜重  
原作：樋口卓治「ボクの妻と結婚してください。」（講談社文庫）  
出演：織田裕二 吉田羊 原田泰造 高島礼子  
©2016映画「ボクの妻と結婚してください。」製作委員会

海賊と  
よばれた  
男

**2016年12月10日（土）全国東宝系にてロードショー**

「永遠の0」チームが再結集！  
400万部突破の大ベストセラー、完全映画化!!

**『海賊とよばれた男』**

原作：百田尚樹「海賊とよばれた男（上下）」（講談社文庫）  
監督・脚本・VFX：山崎貴  
出演：岡田准一  
©2016「海賊とよばれた男」製作委員会 ©百田尚樹／講談社



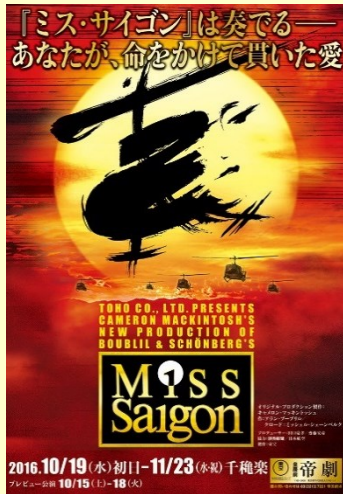
**2016年12月17日（土）全国東宝系にてロードショー**

110万部突破の感涙の恋愛小説「ぼく明日」が映画化！  
切ない運命を背負った二人の、奇跡の恋の物語。

**『ぼくは明日、昨日のきみとデートする』**

原作：七月隆文「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」（宝島社）  
監督：三木孝浩  
出演：福士蒼汰 小松菜奈／東出昌大／宮崎美子  
©2016「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」製作委員会

# STAGE LINE UP



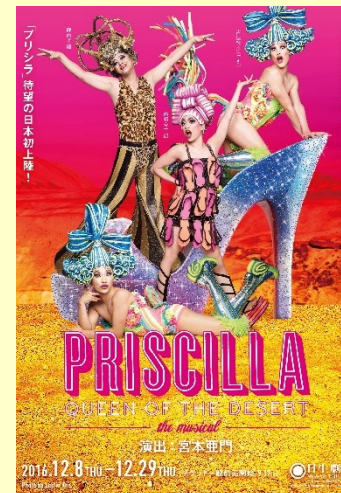
2016年10月～11月  
帝国劇場公演  
『ミス・サイゴン』



2016年10月～11月  
シアタークリエ公演  
『一人二役  
～殺したいほどジュテーム～』



2016年11月～12月  
シアタークリエ公演  
『貴婦人の訪問  
THE VISIT』



2016年12月  
日生劇場公演  
『プリシラ』

# 業績予想

2017年（平成29年）2月期連結業績予想（平成28年3月1日～平成29年2月28日）

主力の映画事業において定番のアニメーション作品が好調に推移したこと、また、「シン・ゴジラ」のメガヒットにより第2四半期累計期間までの業績が当初予想を上回ったことに加え、「君の名は。」が興行収入154億円を超えてなお興行成績を伸ばし続けていることから、映画興行事業・映像事業につきましても業績の大幅な伸長が見込まれます。また、演劇事業、不動産事業の業績につきましても堅調に推移していることから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が予想を大幅に上回る見込みとなりました。

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円、銭
前回発表予想（A）	216,700	33,000	34,400	22,300	121.96
<b>今回修正予想（B）</b>	<b>234,000</b>	<b>47,000</b>	<b>48,500</b>	<b>33,000</b>	<b>180.67</b>
増減額（B-A）	17,300	14,000	14,100	10,700	
前回発表増減率（%）	8.0%	42.4%	41.0%	48.0%	
前期実績増減率（%）	<b>2.0%</b>	<b>15.4%</b>	<b>14.2%</b>	<b>27.7%</b>	
（ご参考） 前期実績（平成28年2月期）	229,432	40,710	42,471	25,847	140.22

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。  
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ  
東宝株式会社  
総務部 広報・IR室  
TEL 03-3591-1303